

○法面緑化・・・緑化のみで安定化を図るには、表土層厚や安定勾配の確認が必要



○マサ土地盤・・・木本の根系が深層部に侵入できない場合、容易に表層崩壊する.

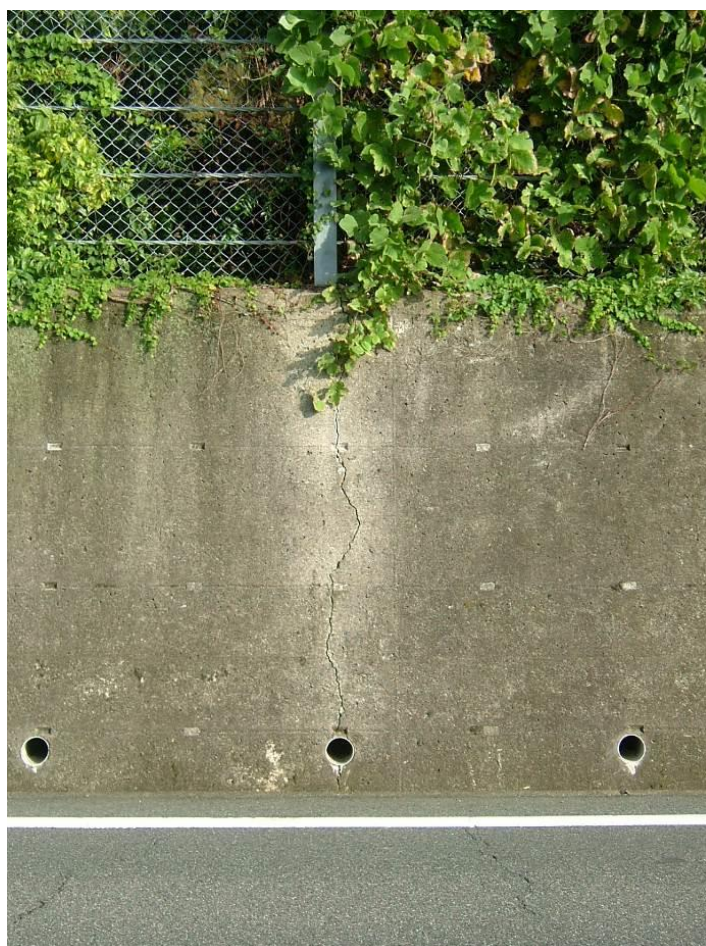




○ラス網の破断・・・安易な対策は二重手間（経費増）

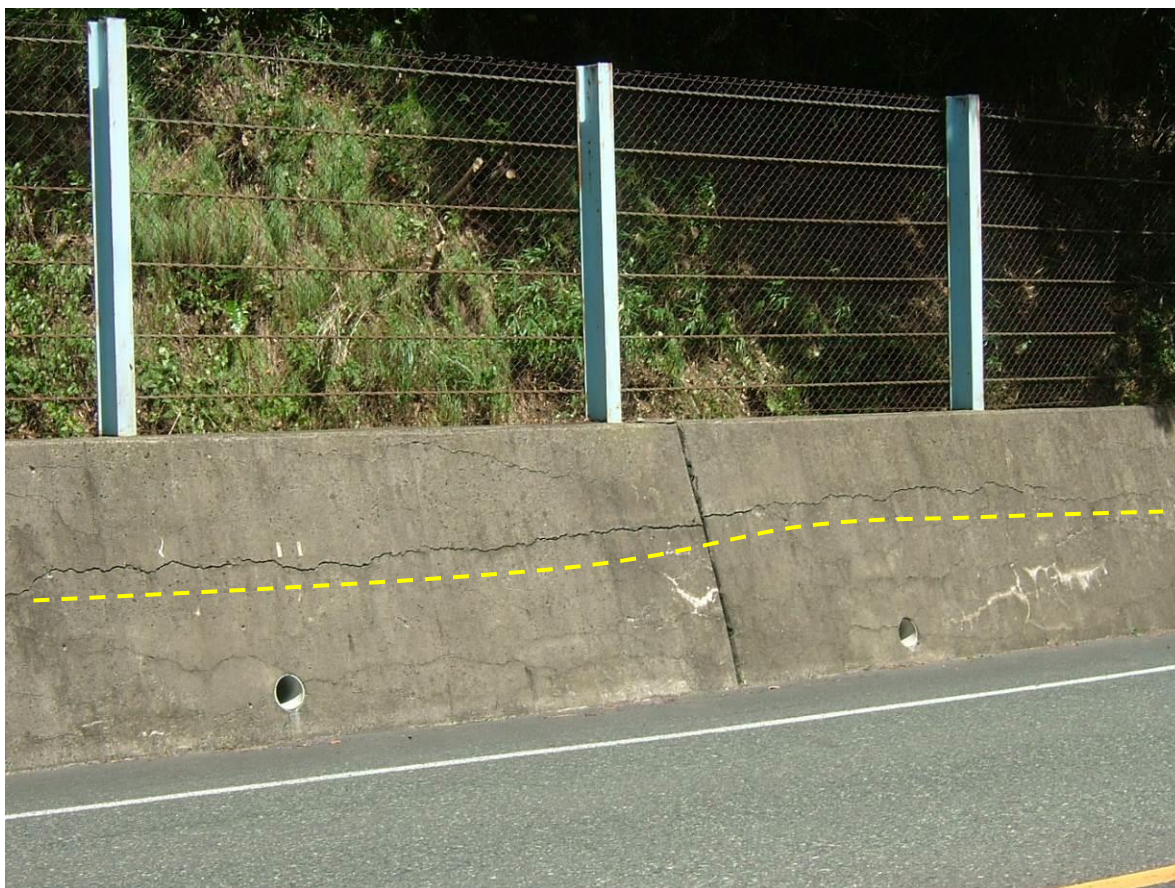


○落石防護柵・・・支柱位置のクラック（このような事例が多い）





○支柱下端位置での連続したクラック

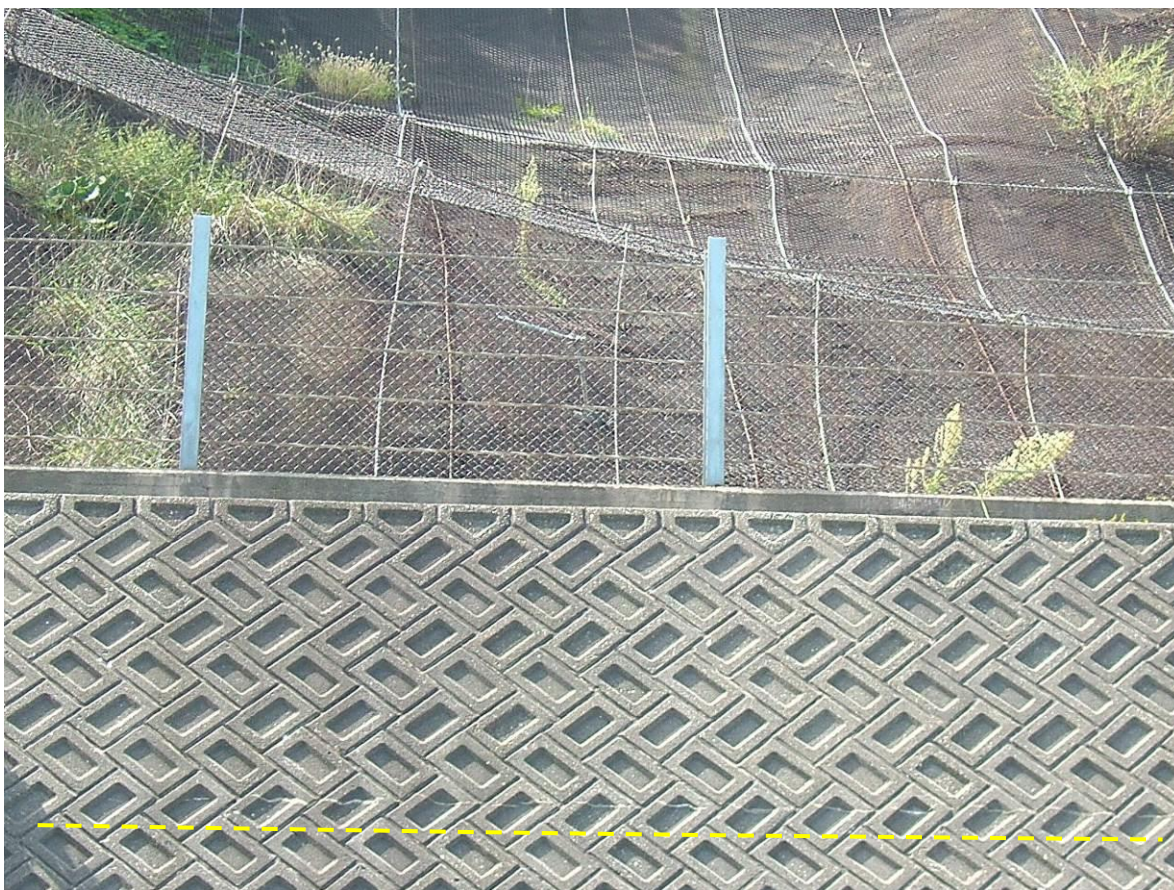


○ブロック積…原因不明のクラック





○コンクリートブロック積・・・壁断面中央付近のクラック（折れ曲がり）



○コンクリート壁・・・地すべり土圧（末端部）によるクラック（折れ曲がり）



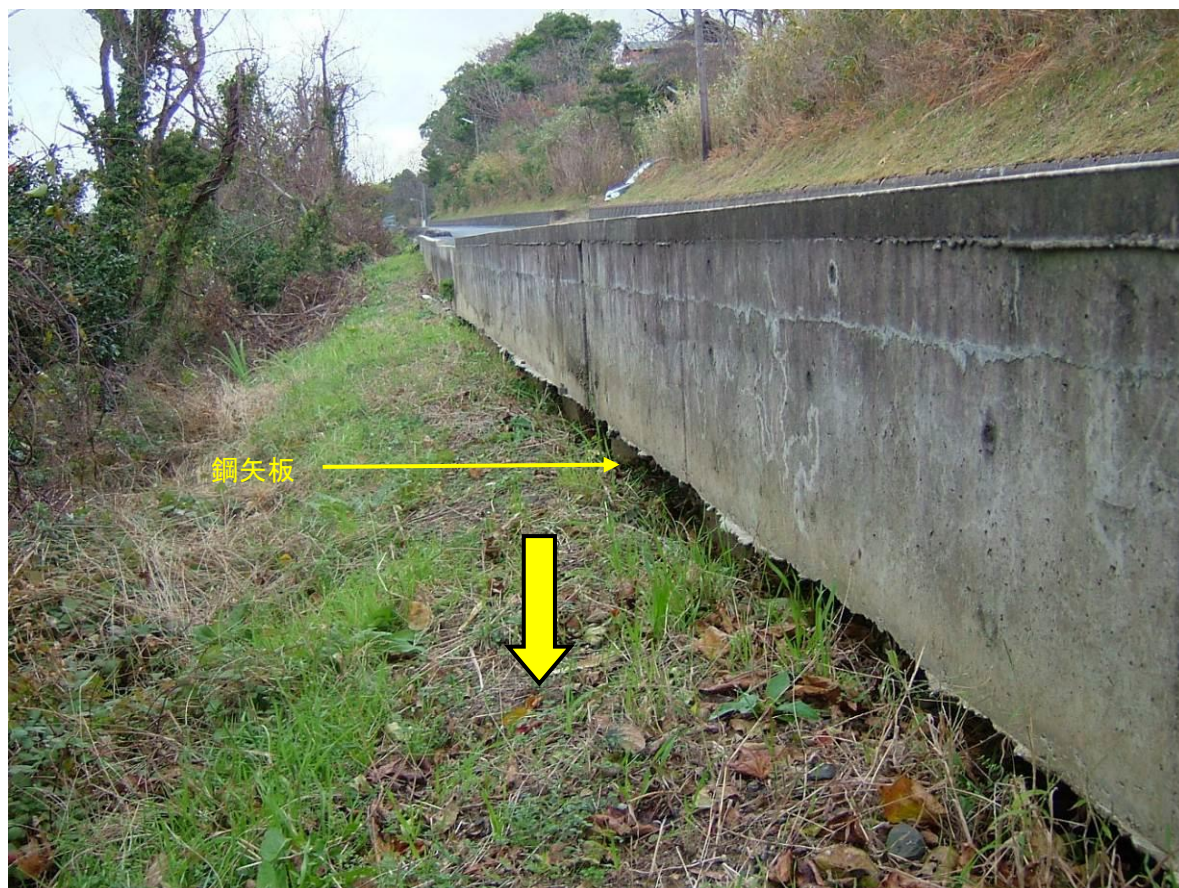


○アル骨被害…キレツの深さを調べる調査において、例えば円内の位置でコアボーリングを実施し、“壁裏までは、キレツが貫通していないことが確認された”といった報告がなされることがある。実際のクラックは調査壁面に垂直に伸びているわけではないので、大口径で実施するか、それ以外の探査方法を考えるべきである。

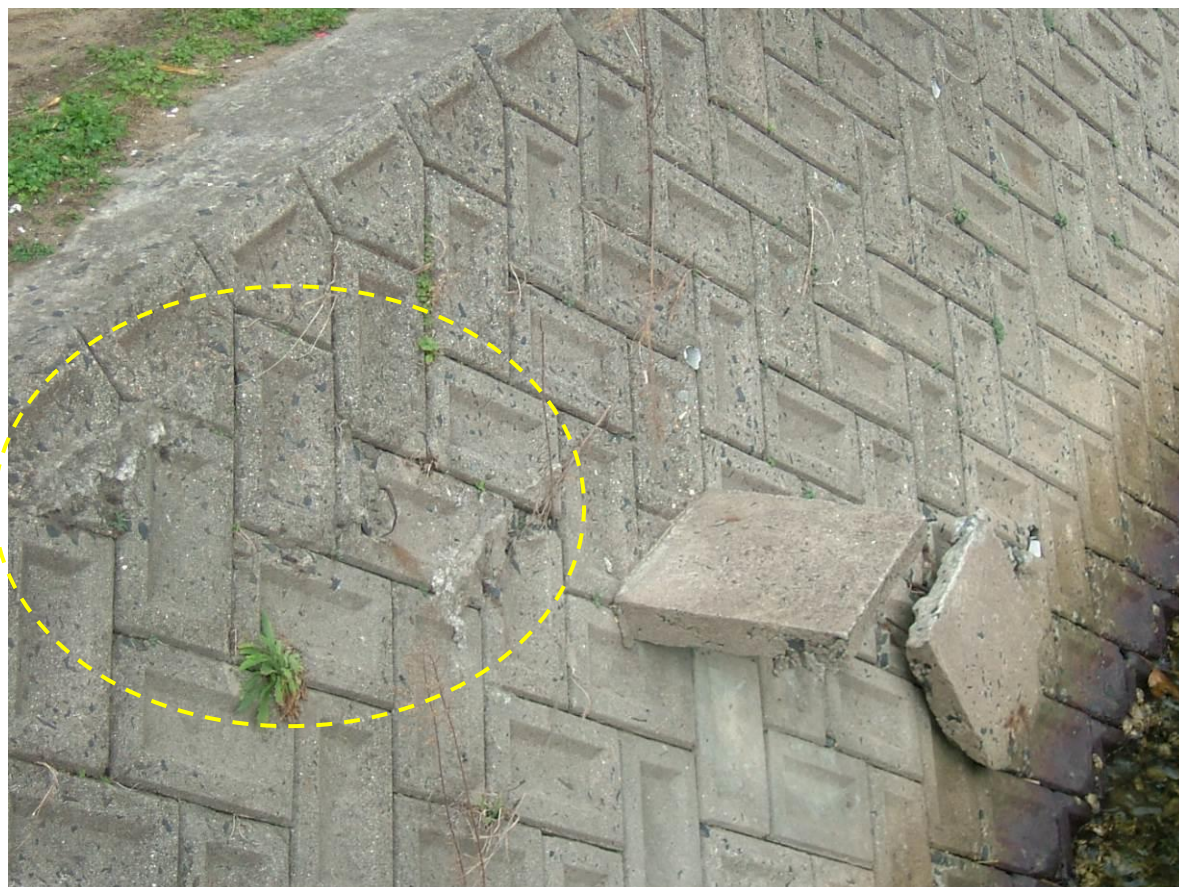




○地盤沈下…矢板頭部をコンクリート壁で巻き立てている。

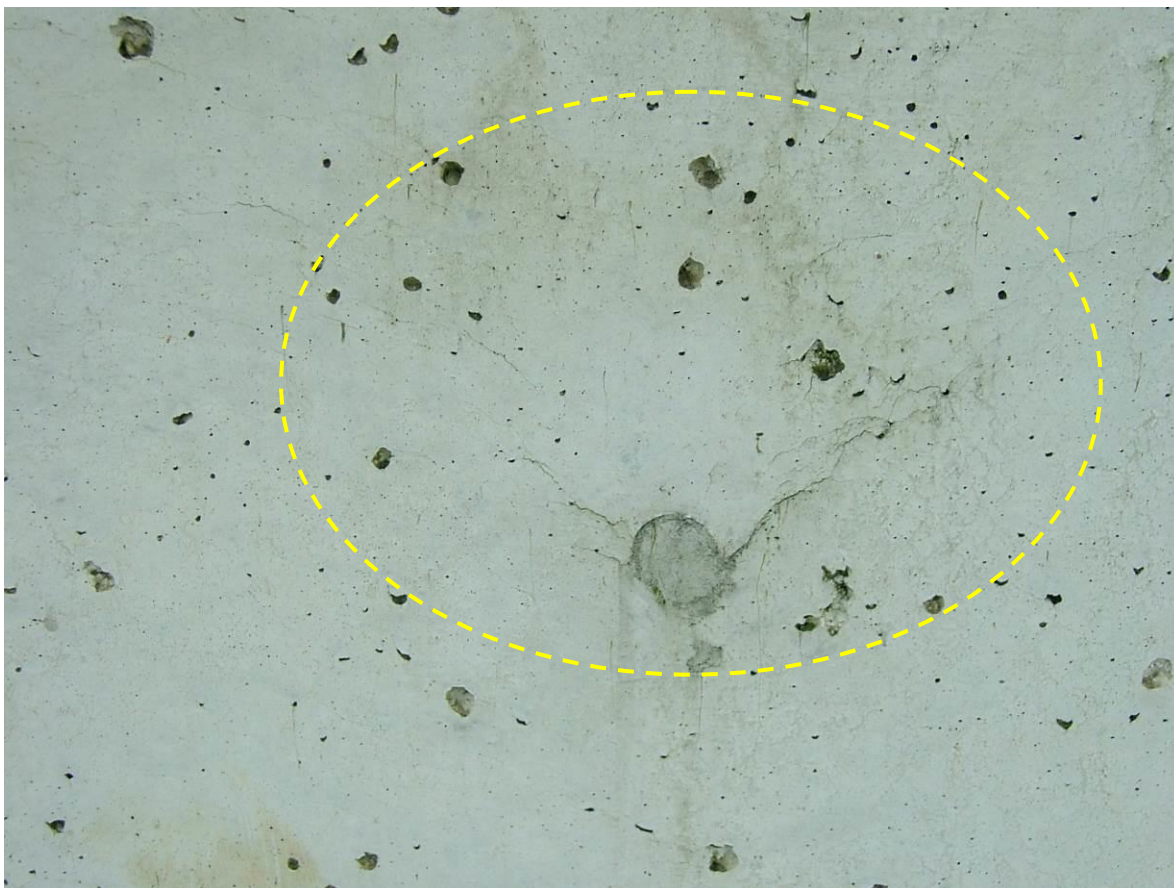


○階段の破損





○コンクリート壁・・・セパ位置での充填が不十分



○打設毎に、表層部に空気泡が集中

